

林業・林産業の協業化を進めて

株式会社 西根製作所 西根貞義さんに聞く



製材業への第一歩

—— 株式会社西根製材所の社長として、さはいはいをふるっておられる西根さんは、また、道南地区木材協会会長、北海道木材協会副会長、北海道製材工業組合道南支部長、道南地方木材林産協同組合連合会理事長など多くの要職に就かれ、さらには地元、木古内地区林産協同組合理事長、木古内町の国民健康保険病院審議会会長や土地開発公社理事長などの公職をも兼務され、幅広くご活躍なさっています。

これらの功績をたたえられて再度の林野庁長官賞、産業貢献者としての知事表彰、さらに昨年度は林業功労賞を贈られたほか、本年度林業年次第40回大会における特別功労賞の受賞など、道南地区業界のリーダーとして、「木」一筋に心血を注いでこられました。今日は、いろいろお伺いさせていただきます。

まず、会社設立からの歩みについてお聞かせください。

西根 父の西根甚五郎は、秋田県から渡道してこの地に根をおろしました。やがて木材に取り組み始め、昭和5年には西根造材部を発足させ、造材・造林の事業を開始しました。私は大正11年

道南地区の木材業界のリーダーとして、林業・林産業の体質強化とレベルアップのために奔走されている、株式会社西根製材所の西根社長をお訪ねし、会社の沿革から木材業界の取り組みなどについて、いろいろ聞かせていただきました。
(編集子)

の生まれでこのとき小学2年生でした。

その後、父親の仕事も一人で大変でしたので、昭和12年学校卒業と同時に造材部の仕事を手伝うことになったわけです。

私が昭和18年春から20年の暮近くまで軍隊に行っていた間は、伐出組合（後の南渡島林産協同組合）の理事長だった父にとって特に苦労が多かった時期です。軍用材を納めていたため事業量が大幅に伸びたところで、終戦近くになると「米がない」、「人が居ない」と最悪の状態に陥り、結局、理事長自ら多くの造材現場の責任を担わなければならない羽目になりました。

このような状態の中で終戦を迎えると食糧事情はますます窮迫し、今後どうなるかわからないといった不安から、山で働く人たちに動揺が広がり、職場を離れる人が相次ぎました。

ともかくも2年ほどかけて山の後始末をしましたが、大変な時代でした。その後、国有林のご指導もあり、また、地元有志の協力もあって、昭和22年に西根製材所として操業を開始し、製材への第一歩を踏み出したわけです。昭和31年に、父親から経営を引き継ぎ、41年には株式会社西根製材所として法人化し、私が代表取締役役に就任して現

在に至っております。

ブナを主体に

—— 事業内容について伺いたいのですが。

西 根 西根製材は、ここ木古内町の本社工場と青森県むつ市のむつ工場の2か所です。2工場とも生産の主体はブナでして、広葉樹が80%、針葉樹が20%の割合になっています。営業品目は、一般製材、広葉樹家具木取材、針葉樹・広葉樹の乾燥材、針葉樹・広葉樹の素材生産、チップ製造などです。家具木取材はブナ材で、針葉樹は建築用材が主体です。

山樺からのチップ生産は木古内工場だけで、むつ工場は廃材チップでごくわずかです。

天然林資源の減少と外材

—— 道南地区木材協会会長としての西根さんにいろいろ伺いますが、まず、道南の森林資源と林業についてお聞かせください。この地方には道内の他の地区では見られない樹種がありますね。

最近、テレビで黒松内町に自生している北限のブナ林が紹介されましたが、道南地区の森林資源はどのような状態でしょうか。

西 根 道南に特有の樹種は、ブナ、ヒバ、それにスギです。ブナは天然のもので黒松内町以南に、ヒバは檜山地方の一部だけに自生しており、スギは造林木のみです。この地域の人工造林は道内でも早くから始まり、スギに次いでカラマツですが、近年の人工植栽は、トドマツがほとんどを占めております。

人工林化は進んできましたが、まだ育成途上の林齢のものが多く、総体としては主伐期までには至っておりません。また、天然林資源の減少から伐採量も減少し、ひいては材質も低下傾向にあります。

—— 道南の林産業について伺います。

西 根 現在、主要樹種であるブナ原木の確保が課題になっていますが、ブナから他の広葉樹への転換といっても道内広葉樹資源の減少もあり、これらをカバーしていくのは外材よりありません



道南のブナ林 (写真提供 函館営林支局)

から、今後とも山元工場でも外材依存度は高まることでしょう。針葉樹材は既に外材抜きでは考えられませんし、広葉樹材も今や同じ状況になってきていると考えています。ブナ材については以前、デンマークや西ドイツから入ったことがあり、最近ではアメリカ東部からも輸入されております。また、北洋のニレ、タモ、カバなども盛んに使われています。

—— 外材はどの港へ揚げているのですか。

西 根 地元では針葉樹もラワンも函館ですが、北部地区の針葉樹は小樽と苫小牧港です。また、その他の広葉樹は苫小牧で、トラックで輸送されております。

—— 道南の木材製品はどのようなものですか。

西 根 この地区の木材製品は、ブナの合・単板、ブナのフローリング、ブナその他の家具材、それにヒバ、スギ、トド、カラマツの建築材や建



道南のヒバ林 (写真提供 函館営林支局)



道南のスギ林 (写真提供 函館営林支局)

設用材, その他です。

—— 漁家備林とよく耳にしますが, どういうものでしょうか。

西 根 道南地区は半島とその基部で, 周囲が海ですから漁家が多く, 一町村には少なくとも一漁業組合がありまして, 漁業地域ともいえます。多くの漁家は裏山に備林をもっていますが, このことは山林の所有面積が小さいことにもつながり, いわゆる零細所有規模の林家です。例えば, 自分の持ち舟の補修のため自家備林から伐り出す, といった具合で, 計画的に林業経営をやっておられる山林所有者は民有林全体のわずかに過ぎません。

—— 会長さんの思い出深いできごとは。

西 根 さかのぼりますが, 昭和25年の朝鮮動乱による特需が35年ごろまで続いたこと, その後伐採量は多かったのですが道内の景気が落ち込んだこと, 40年代後半以降の急速な経済成長によって木材価格の上昇が続いたことです。一方, 昭和

29年の洞爺丸台風により, 大量のエゾ・トド風倒木が大沼に貯材されたことなどです。

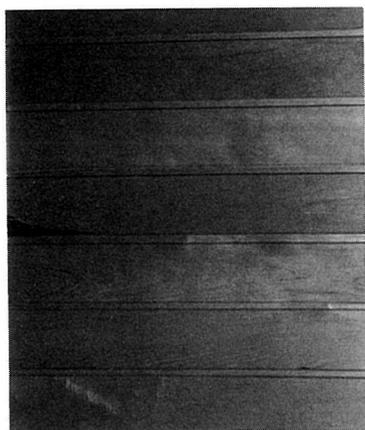
地域の林業・林産業の協業化を進める

—— 地域の協業化を進められていると聞いていますが。

西 根 私は昭和44年以降17年間にわたり, 木古内地区林産協同組合の理事長も勤めてきましたが, かねてから林業・林産業の協業化を図らなければならないと考え, 主として国有林材の共同購入, 共同生産, 共同販売, および造林請負事業の一本化確立を積極的に推進してまいりました。特にブナ材の高度利用については, 高品質製品の生産と普及を, 道南地区関係者が一丸となって取り組みを進めてきました。

道南スギの活用を図る

—— 道南スギについて, どのような活用を



ヒバ内装材



スギ内装材



カラマツ内装材

お考えですか。

西根 かつては青森県の下北などから船でスギ材が盛んに移入され、地元材とともに使われたのですが、洞爺丸台風によって道内のエゾ・トド風倒木が大量に出回り、さらにそのあとを追って北洋材が入り始めて、建築材がエゾ・トドに一変し、スギの地場需要に課題を残しました。このため、スギ材は高級材としてだけ使われている傾向が見られます。

現在、道南から約3万m³の素材が生産されていますが、その半分は原木のまま本州に移出されているといわれます。この点が大きな問題であり、地場産業の発展のために本来、地元で製材加工することが望まれるわけです。

そこで、昭和54年に地域の地方公共団体を含めた「道南スギ産地形成推進協議会」が発足し、さらに57年には「道南スギ製材協同組合」を設立しまして、育林技術の普及啓もうから、利用加工技術および流通の改善普及などに努めてまいりましたし、今後も努力していかなければならないと思っています。

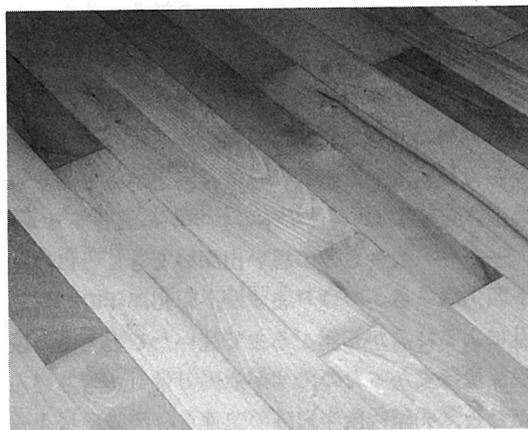
三つの課題に取り組む

—— 道南地区木材協会の会長さんとして、これからの課題についてお聞かせください。

西根 第一に工場の体質に応じた原木の確保です。先ほども申し上げましたように、国産材の

減少分は外材でカバーしなければなりません。木材需要はここ2年間、住宅建設をはじめ大きな伸びを見せ、道内の外材消費量も、パルプ材を含め、その半数に迫ろうとしております。今後においても、国内の景気動向や為替相場、輸出国の諸事情などによって、多少の変化はあるでしょうが、さらに依存度が高まっていくことだろうと思われれます。また、国産材の利用については、特に針葉樹の育成途上で生産される間伐材の利用開発などを推進しなければなりません。

第2の課題は高付加価値製品の開発です。製材加工技術が向上し、品質も良くなってきていますが、いまだ多くの課題が残されています。さらに工夫して、加工技術の向上や新しい製品の開発に



ブナ床材

努めていかなければならないと思います。

第3の課題は地場需要の拡大を図っていくことです。最近は「木」の良さが見直され、かつてはデパートやスーパーの家庭用品売場は、金属やプラスチック製品ばかり並んでいたのが、最近はかなり木製品が見られるようになりました。合理化製品のみを求める生活から、本物志向の時代になり、「木」の美しさ、ぬくもり、肌ざわりなどが見直されています。これまで道南林産業界は、一貫してブナ材の利用開発を推進してきました

が、さらに最近には道南スギ材の産地形成と地場需要拡大のためにも奔走しております。

今後とも、時代のニーズに適合した製品の開発や、販路の開拓などを通じ、業界全体の団結や、意識の向上、体質の強化に努めていきたいと考えています。

—— 本日は、ご多忙のなか、貴重なお話を承り、まことに有難うございました。

(文責 山内 賢治)

株式会社西根製材所

創 業 昭和5年 西根造材部
設 立 昭和22年 西根製材所
法人設立 昭和41年 株式会社西根製材所
役 員 代表取締役 西根 貞 義
取 締 役 西根 悌 司
" 西根 貞 光
" 西根 義 行
監 査 役 平野 市 蔵

本社工場 北海道上磯郡木古内町字幸連55-1
電 話 01392-2-2303
むつ工場 青森県むつ市斗南丘29
営業品目 一般製材
広葉樹家具木取材
針葉樹・広葉樹乾燥材
針葉樹・広葉樹素材
造材

北海道林産技術普及協会の主な業務

- 会誌「ウッディエイジ」の発行（会員は無料）
- 文献・資料のコピーサービス（有料）
- 講習会・講演会
木材加工技術に関する講習会（会員は無料又は優待会費）や講習会を随時開催しています。
- 現場技術のハンドブック等の刊行（実費頒布）
「テクニカルノート」のほか、新しい技術や新製品に関する技術資料を逐次刊行しています。
- 技術相談・試験依頼等の斡旋
林産試験場に対する技術相談・分析・試験等のお取りつぎをします。

入会をおすすめ下さい

特 別 会 員 名 簿

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 相田木材株式会社 (富良野市) | 北海道ラーチ株式会社 (恵庭市) |
| 浅野木材株式会社 (旭川市) | 天竜木材株式会社 (静岡県) |
| 旭川第一木材株式会社 (旭川市) | ニチハ株式会社 (名古屋市) |
| 旭川地方木材協会 (旭川市) | 中道機械株式会社 (札幌市) |
| 旭建材株式会社 (札幌市) | 北海道パーケット工業株式会社 (上磯町) |
| 伊藤組木材株式会社 (札幌市) | 当麻町森林組合 (当麻町) |
| 岩倉組木材株式会社 (苫小牧市) | 厚浜木材加工協同組合 (浜中町) |
| 上川林産工業株式会社 (上川町) | 稲荷体育用品株式会社 (札幌市) |
| 北見地方木材協会 (北見市) | 協同組合連合会北見カラマツセンター (留辺蘂町) |
| 斉藤木材株式会社 (旭川市) | 北日本木材株式会社 (旭川市) |
| 斉藤木材株式会社 (興部町) | 京極町森林組合 (京極町) |
| 札幌ベニヤ株式会社 (清里町) | 札幌建具工業協同組合 (札幌市) |
| 札幌ベニヤ株式会社 (白糠町) | 山陽木材防腐株式会社 (札幌市) |
| 札幌地方木材協会 (札幌市) | 深川林産株式会社 (深川市) |
| 札幌地方木材林産協同組合連合会 (札幌市) | 株式会社北海技建工業 (札幌市) |
| サンモク工業株式会社 (砂川市) | 北海道きのご農業協同組合 (札幌市) |
| 山陽国策パルプ株式会社 (旭川市) | 丸善木材株式会社 (釧路町) |
| 新日本コア株式会社 (札幌市) | 株式会社マルニ (広島県) |
| 昭和木材株式会社 (旭川市) | 大栄木材株式会社 (旭川市) |
| 天塩川木材工業株式会社 (美深町) | 坂本木材株式会社 (札幌市) |
| ニヘイ木材株式会社 (当麻町) | 三浦組木材工業株式会社 (留寿都村) |
| 日本木材工業株式会社 (旭川市) | 株式会社成正 (札幌市) |
| 東北海道木材協会 (帯広市) | 置戸林産流通加工協同組合連合会 (置戸町) |
| 北海道森林組合連合会 (札幌市) | 刈谷木材工業株式会社 (愛知県) |
| 北海道製材工業組合 (札幌市) | 札幌産業株式会社 (札幌市) |
| 北海道フローリング協同組合 (札幌市) | 有限会社山崎ツキ板店 (旭川市) |
| 北海道木材協会 (札幌市) | 株式会社ハウジングシステム (旭川市) |
| 北海道合板工業組合 (札幌市) | 株式会社ミサワホーム旭川 (旭川市) |
| 北海道パルプ材協会 (札幌市) | 三明建設株式会社 (旭川市) |
| 北海道林産物検査会 (札幌市) | 株式会社成功建設 (旭川市) |
| 北海広葉木材株式会社 (札幌市) | 株式会社北創建設 (旭川市) |
| 丸玉産業株式会社 (津別町) | 朝日ウッドテック株式会社 (岸和田市) |
| 三井東圧化学株式会社 (砂川市) | ロッキーハウス (旭川市) |
| 村上木材株式会社 (旭川市) | 有限会社東都建築企画 (旭川市) |
| 池内ベニヤ株式会社 (静内町) | 株式会社吉田建設 (旭川市) |
| 株式会社生晃 (栃木県) | 株式会社土屋ツーバイホーム (札幌市) |
| 株式会社土屋ホーム (札幌市) | 株式会社セレクトアホーム渡部 (旭川市) |
| ヤマハ株式会社 (浜松市) | 株式会社アスク中央研究所 (石岡市) |
| 住友林業株式会社 (静岡市) | イワクラホーム株式会社 (札幌市) |
| 株式会社楠瀬木工場 (遠軽町) | サンフロア工業株式会社 (岩見沢市) |
| 住建産業株式会社 (広島県) | |